

令和4年度（2022年度）熊本県総合教育会議 議事録

期 日：令和4年（2022年）12月1日（木）

時 間：10：00～11：30

場 所：県庁本館5階審議会室

出席者：熊本県知事 蒲島 郁夫

熊本県教育長 白石 伸一

熊本県教育委員 木之内 均、田浦 かおり、田口 浩継、

西山 忠彦、三淵 浩

議 題：「熊本県教育大綱・第3期教育プランを踏まえた施策の取組状況と今後の方向性」

【竹中 教育政策課長】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和4年度熊本県総合教育会議を開催いたします。私は事務局を務めます教育政策課の竹中でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の進行は白石教育長に務めていただきます。白石教育長、よろしくお願いいたします。

【白石 教育長】

教育長の白石でございます。本日は、総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。

この会議は、知事と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域における教育の課題を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進できるよう実施するものでございます。

まず議事に先立ちまして、蒲島知事から御挨拶をいただきます。お願いいたします。

【蒲島 知事】

皆さんおはようございます。本日は、御多忙の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。今年度の総合教育会議の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、日頃より本県教育行政の推進に多大なる御尽力をいただき、心から御礼を申し上げます。

平成27年度に始まったこの会議も、今回で9回目となります。昨年度の会議では、今後の教育行政の方向性について、教育委員の皆様方と認識を共有することができました。

今回も、昨年度に引き続き、「熊本県教育大綱・第3期教育プランを踏まえた施策の取組状況と今後の方向性」について、協議させていただきます。

人口減少や高齢化に加え、DX、グローバル化、そして、TSMCの本県への進出決定など、子ども達を取り巻く環境は急速に変化しています。

しかし、このような変化をチャンスと捉え、今後取り組むべき重要な教育課題の方向性

を議論し、明確にすることは、子ども達の夢を叶える教育環境を実現するための重要なプロセスだと考えております。

私は、子ども達の可能性を大きく広げるための多様な学びの場を提供し、夢を育み・支え、「誰一人取り残さない」教育を実現したいと考えております。

教育委員の皆様方におかれましては、忌憚のない御意見を、是非お聞かせいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願い致します。

【白石 教育長】

ありがとうございました。本日御出席の皆様の御紹介につきましては、お席に配布しております出席者名簿をもって代えさせていただきたいと思っております。

次に、本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、公開とさせていただきたいと考えておりますがよろしいでしょうか。（はい。）

ありがとうございます。それでは本日の会議は、公開として開催したいと思っております。

続きまして議事に移ります。今年度は、「熊本県教育大綱・第3期教育プランを踏まえた施策の取組状況と今後の方向性」と題しまして、皆様と意見交換をさせていただきたいと思っております。

議事の進め方といたしましては、テーマを大きく3点に整理しておりますので、3点のテーマごとに、目安として事務局から5分程度資料の説明を行った後、皆様に意見交換をしていただくという流れで進めたいと思っております。最後に全体を通して、また、3つのテーマ以外についても幅広く御議論いただければと考えております。

それでは、最初のテーマは、「誰一人取り残さない学びの保障」でございます。事務局から資料の説明をお願いいたします。

【竹中 教育政策課長】

それでは、1つ目のテーマの「誰一人取り残さない学びの保障」について御説明します。

資料1ページを御覧ください。本テーマは、「多様な教育的ニーズに応える」と、「安全・安心な学校づくり」の2つの項目で整理しております。

まず上段左側の将来像です。「県立の夜間中学において、様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学を卒業した方などに対し、義務教育を受ける機会を提供すること」、また、「すべての不登校児童生徒が支援を受け、社会的自立を目指すことができる、いじめを受けた児童生徒が誰かに相談できる、解決ができること」、そして、「児童生徒が安全・安心で良好な学習環境で快適な学校生活を送ることができること」を目指します。

次に、現状の課題及び右側の1年後の目指す姿です。夜間中学設置の背景として、県内における義務教育未修了者が約2万人おり、そのうち小学校を卒業していない方が約2千人おられます。そうした方々が義務教育を受ける機会を提供するため、令和6年4月に県立の夜間中学を開校します。また、不登校児童生徒への専門家からの支援が不十分、いじめを受けた児童生徒の中で誰にも相談できていない児童生徒がいることから、支援が必要な児童生徒やその家庭に対する専門家等による支援を充実させるとともに、いじめのない学級、学校づくり、組織的な対応を構築します。さらに、施設の老朽化が進んでおり、トイレの洋式化や空調施設整備等の良好な学習環境確保及び教育環境多様化への対応が必要

なことから、長寿命化改修、トイレ改修等のバリアフリー化を着実に進めるとともに、県立高校の教室に公費で空調を設置いたします。

続いて、下段の取組内容についてです。まず、「多様な教育的ニーズに応える」として、夜間中学の開校に向けた準備を着実に進めるとともに、特別支援教育については、「新しい通級による指導モデル」の開発等により、通常の学級を含めた全ての学びの場の整備と教員の専門性向上による授業の質の向上を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた学びの実現に取り組みます。続いて、「安全・安心な学校づくり」の1の「いじめ・不登校への対応」については、スクールカウンセラーについて、教育事務所への配置の拡充や、特別支援学校への追加配置を検討するとともに、スクールソーシャルワーカーについても、県全体の相談時間の拡充を検討するなど、支援体制を充実させたいと考えております。2の「施設整備の推進」につきましては、令和3年3月に策定した「熊本県立学校施設長寿命化プラン」に基づいた、長寿命化改修を計画的に進めるとともに、トイレ改修等の学習環境や教育環境の計画的な整備、県立高校への教室への空調設置等を進めます。

本テーマに関する事務局からの説明は以上です。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございます。

それでは、このテーマについて、皆様から自由に御発言いただければと思います。よろしく願います。木之内委員、願います。

【木之内 教育委員】

木之内でございます。非常に重要なテーマだと思っております。夜間中学も整備が進んでいるようで、こういった準備をしていくことも大切なんですけど、やはり一番問題になってくるのは、今取り残されているというか、検討はされていますけど、不登校の子ども達にどれだけきちんとした学習の機会を設けていくかということだと思っております。その部分では、リモートですとかいろいろなことが整備されることによって、学習をする機会は増えていると思うんですけど、特に対人関係とか、人との接触というものは、学力と同時に非常に重要な点かなと考えております。そういった中では、これは教育委員会だけで捉えるのではなくて、我々農業の世界だと農福連携みたいなことが非常に今強く言われているんですけども、こういった他の産業、農福だけの問題ではなくて、農福工業とかですね、こういった分野、いろいろな部とも連携をしながら、こういう児童生徒たちにどのようところで学びのツールを提供できるかみたいなことをしっかり検討していくことが重要かなと思っております。特にスクールカウンセラーの方やソーシャルワーカーの方を配置していただいていますので、こういった多様な分野のところ、どういうことが生かせるのか、そういったことなんかをこういった専門の方々とも意見交換をすることによって、皆さんで、要するに教育関係の我々だけではなく、県の一人一人皆さんで作っていくみたいなことが重要なのかなということを感じております。

また、いじめ等についてはですけども、新型コロナ関係で、我々も県警との連携が途絶えているんですね。コロナ前には、年に1回、県警（公安委員）の方々とも意見交換をさせていただいて、現状ですとか、専門的ないろいろな難しい課題もありますので、そうい

った部分についても把握しながら、お互いに連携していくことをやっていたと思うんですけど、その辺のところは、是非またいろんな形で連携がとれるようにできたらなということを感じております。以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございました。西山委員、お願いします。

【西山 教育委員】

西山です。よろしくお願いします。3点ございます。

まず1点目が、施設整備ということで、インフラ、ハード面の整備をやっていただくと。大変ありがたく思いますので、積極的にやっていただきたいと思います。それに併せてなのですけども、ソフト面の推進。特に、後ほど議論に挙げられますけども、その基本になる先生の人手不足、人材不足。その点についての対応を進めていかないと。すべて実際に動いていただくのは先生方ですので、ソフト面の整備、推進も併せて実施していかなければならないというのが1点目です。

2点目は、安全・安心、いじめ・不登校について、いろんなところで御対応いただいておりますことに感謝申し上げますけども、併せて、未然に防ぐ対応の強化を進めていかなければならない。具体的には、その未然という部分で、SOS行動とか、援助希求というものを察知する仕組みを作らなければいけないと思っています。その仕組みとして、家庭学習ノートや、近くの常山中でやられている校内チャット、そういう自分たちで自浄する活動、家庭学習ノートについては家庭も含めてノートが回るわけですから、そういったレジリエンスな教育ができる体系を作っていかなければいけない。その未然の部分にもっと力を入れて、具体的な活動をやっていかなければならないと考えております。

3点目は、夜間中学が進められて大変ありがたく思いますし、その中で先般お話を聞きましたら、札幌の夜間中学で社会人のボランティアが参加されていると。夜40分授業が4コマあるのですけども、そこに社会人の方が来られ、応援していただいて、生徒の横で教えていただくと。そうすると1日あたり千円のクオカードを差上げると。非常にいい活動だなと思ったので、そういった社会人ボランティアの応援あたりもいただきながら、夜間中学の運営ができると非常にいいなと思ったところでございます。

以上3つ、やっていただければと思います。よろしくお願いします。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございました。では、田口委員、お願いします。

【田口 教育委員】

田口です。先日、黒石原支援学校に訪問させていただいたのですが、すごく一生懸命に、児童生徒の方、そして教職員の方々が活動されているのがよくわかりました。その中ですごくいいなと思ったのが、ICTを活用することによって、これまではこういう作業ができなかった、学習ができなかった又はそういう仕事に就けなかった方々が、それが可能になるというのが見えて参りました。是非特別支援学校においても、ICT教育又はICTを利

用することによる就労支援、そういうものにも力を入れていただければと思いました。併せて、県の伝統工芸館も訪問させていただいたのですが、そこでは、京都で実際にやられているようなのですが、地元の伝統工芸士の方と特別支援学校の児童生徒さんとの交流が非常に盛んになっているそうです。例えば皿に絵付けをするという作業ですが、黙々と几帳面にやれるというのは、特別支援の児童生徒さん達は長けておられる方がたくさんいらっしゃるように思いました。いろんなところと連携することによって、特別支援の児童生徒の皆さんも幸せになれる、やりがいを持って人生を送ることができる、そういうのがあるなというのに気づかされました。是非その辺りの支援もお願いしたいと思います。

そして、職員の方もおっしゃったのですが、私も見て思ったのですが、やはり老朽化していました。そこは再春医療センター、病院の敷地内にあって、その院長さんからの御提案だったのですが、敷地内の空いているところに移転してもらうと、更にもっと良い連携ができるのではないかとということでした。すごくありがたいお話だなと思ったところです。静岡県の実例を7月の全国の教育委員の会議で聞くことができたのですが、特別支援の学校を新たに作るとなると、非常に土地や建設費が高くなるので、高校の生徒さんが少なくなってきて空いている教室に、特別支援学校の分校を作るというのをいろんなところで進めておられるそうです。県内90の高校の敷地内にそのような分校を設置するというのを、ずっと進めておられるそうです。特別支援の児童生徒さんはなかなか通学が難しい、保護者の方も送迎が難しい、または寮に入らないと通学できない、学習できないという方々、そういう方々にとっては、地元の高校、身近な近い距離にあるところでそういう教育を受けられるというのは、すごくメリットがあるなど。施設設備を新たに作るよりは、うんと安いお金でそれが可能になるので、この辺りについても、熊本県でも推し進めていかれるといいなと思ったところです。以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございました。三淵委員、お願いします。

【三淵 教育委員】

三淵です。まずテーマに関しては、学びの保障という、ちょっと硬いですがけれども、保障するところがあるところがすごく良くて、内容も十分に行き渡っているのではないかなと感じました。「多様な教育的ニーズに応える」というところで、特別支援教育の充実について、一人一人の個別の教育的ニーズに応じると書いてありますので、そこは大事なかなと思いますけど、医療的ケア児については、医療的ケアは要るけど知的にはかなり優秀な子どもさんもおられて、そういう人が普通の学校に通えるということも大事で、その辺で、学校ナースといいますか、看護師さんの配置とかが結構問題になったりしますので、そのところをよく考えて対応をできるようにしなければいいかなと思います。

また、「安全・安心な学校づくり」で、いじめに関するところですけど、一つ質問は、スクールロイヤーの活用とか、弁護士さんだと思いますけど、どんなふうな感じなのかなと。病院の場合はですね、病院の顧問弁護士さんとかがおられて、医療保障とか何かあったときに対応してもらいますが、個別にいらっしゃるのかなというのが一つ質問です。あと、いじめに関しては、私も患者さんから相談を受けることがあって、いじめられてい

ることを親にどうやったら相談するかとか。ここの現状の課題にも、いじめを受けた児童生徒の中で、誰にも相談できないとかありますが、いじめの場合、いつも受けた人を中心に物事を考えるようにするんですけど、それではいじめはやっぱりなくならなくて、いじめめる子どもというの、やはり心の中に凄く病的な部分があって、お父さんお母さんに対する不満とか、家庭の中での不満とかがあって、学校で、ある相手を見つけていじめちゃうというところがあるんで、僕は相談を受けたときに、意見書なんか書くときに、いじめていると分かっている場合、そのいじめている側の子どもに話をよく聞いてくださいというのをやっています。その視点がないと、なかなか、いじめを受けた生徒だけにかかっても、なかなかうまくいかないんじゃないかなと思います。

不登校・ヤングケアラー等も、やはり医療機関が関係するのが大事かなと思います。例えば、子どもさんから死にたいとか相談されたときに親がびっくりして、そしてそれを親が精神科に相談しようと思ってもなかなか診てくれません。今、新患はほとんど精神科の先生達はうまくいかないんで、その辺を学校側からすぐ繋げるような、緊急性の高い人について親から相談あったら、医療機関に一般のやり方では、なかなか初診として受け入れてくれないところを特別にできるようなシステムが必要かなと思います。私がどうしてるかというと、まず私が診るんですよ。私が診て私が紹介すると、やっぱり看護師さんのリエゾンとかありますから、そこに行くとすっといきますけれども、一刻を争う場合もあるんで、その辺りの工夫が、専門機関と教育関係者が連携することがやはり大事かなと思いました。

また、田口委員が言われた件で、僕は特別支援学校の黒石原と、かがやきの森しか支援学校に行ったことなく、今回、訪問で菊池支援学校に行くということになりましたけど、かがやきの森と黒石原を比べると、かがやきの森は凄く新しく、黒石原がかなり老朽化しています。病院は再春医療センターということで、新たに立派な建物が建ったんで、逆にみずばらしく感じますので、施設整備の推進について、老朽化した支援学校も考えていただきたいなと思いました。以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございました。スクールロイヤーの状況とか、御質問があった点をお答えいただけますか。事務局からお願いいたします。

【野崎 学校安全・安心推進課長】

学校安全・安心推進課でございます。スクールロイヤーにつきましては、現在、活動といたしましては、いじめに対する予防授業がございます。資料等を弁護士会の方にお作りいただきまして、予防授業を実施しております。これは、生徒に対して実施をいたしまして、職員に対しても同じ職員研修を実施するということでやらせていただいております。また、現在5名の弁護士が、非常に困ったこと、保護者との関係ですとか、そういうところについて相談を受けるという相談活動を行っております。ちなみに、令和3年度の実績ですが、予防授業を19校で行っております。職員研修を18校、相談活動については8件対応いただいているという状況でございます。以上でございます。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございます。委員の方から何かございますでしょうか。西山委員、どうぞ。

【西山 教育委員】

いろいろと御苦労かけてると思いますけども、予防の部分をやはり強化して欲しいということで、さきほどお話いただいたことは続けて欲しいんですが、僕は何度も、もう3～4年言っていると思いますけど、家庭学習ノートですね。子ども達が帰って勉強したものをノートに書いて、それを親が見て、親がコメントを書いて、そしてそれが先生のところにいって、先生がコメントを言って、また生徒に戻って回っていくと。そういった非常にアナログな世界なんですけども、やはりそういうものから、家庭を含めた教育が実現するし、そしていろんな微妙な変化、先ほどの援助希求といいますか、そういう部分をそこで察知する形をとっていかなくちゃいけないと思うんですね。あとは先般、この会議の時にホットラインのお話もしましたが、ホットラインというのは、なかなか当事者が電話しにくい部分があるんで、やはり察知しないといけない。

しかし、熊本県のホットラインは、5回線ぐらい電話番号があって、それぞれかける人が判断して電話しないといけないけど、5つの回線を覚えられないですよ。ですからそれを1つにまとめて、困ったことがあったらここに電話しなさいということにして、1本にしたときにどれだけ電話がかかるかはちょっと不明ですけども、トライアンドエラーでどんどんいろんなことをやっていくべきだと思います。

最終的には、家庭学習ノートは御担当の方には御苦労かけるとは思いますけど、僕は5年ぐらい言ってるんじゃないかと思いますが、なぜやらないのかというのは非常に不思議で。また、最近は帯山中で匿名のチャットがあって、それに対して皆で改善する、自分達の組織内で自浄作用を働かそうじゃないかという動きもあって、そういう部分をどんどん展開していかないと、予防という未然に防ぐということができないと思いますので、その辺はもっと強化いただきたいなと改めて思いますので、よろしくお願いします。

【白石 教育長】

はい。木之内委員、お願いします。

【木之内 教育委員】

先ほど田口委員のおっしゃられた、県立高校で小さくなって空いたところを使うとか、こういうのは本当に大事なことです。氷川がそういう形で支援学校に変わっていったり、また、芦北が普通の高校と併設してまして、ここを1回視察させていただいたときに、通常の高校生に対しても、支援学校と併設していることによって非常に良い効果が出ているというのを、先生方からずいぶんお聞きしたんです。これは非常に大事なことで、支援学校の生徒さんだけではなくて、むしろ一般の生徒にとっても学びの場になっていく、まさしく人が皆平等であるということも含めて、芦北は県内ですから、是非いろいろモニターをしっかりといただいて、今後、田口委員がおっしゃられた静岡の例みたいな形も含めて、やはり通学の問題もあるんで、こういったものが各地に展開できるのかどうか、是

非検討いただけたらいいかなと思います。

【田口 教育委員】

1つだけ情報を。

【白石 教育長】

はい、田口委員。

【田口 教育委員】

先ほど静岡の話をしました、90の高校のうち10校で、特別支援学校の分校をつくっているということでした。以上です。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございます。私からよろしいですか。

各委員さんからいろいろお話をいただきました。木之内委員からは、いじめ・不登校などは各部との連携が必要だ、重要だということで、警察ともそうですけど、農福連携とか、工業との連携とか、その辺もしっかり今からやっていきたいなと思っているところでございます。

それから、西山委員から、家庭学習ノートの話、これは私も教育委員会の中でいろいろお話をお聞きして、しっかり取り組むように今準備を進めておりまして、また説明させていただく機会をいただければと思っておりますが、いじめなどは未然防止が非常に重要だというふうに思っておりますので、その辺りも含めて、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

また、夜間中学についてもお話いただきまして、先日委員の先生方にも出席いただきましたが、シンポジウムも開催させていただいて、先催県といいますか、すでに開催しているところの3地域の校長先生とかにも来ていただいて、いろんな事例を紹介していただきました。それを今しっかり勉強しておりまして、令和6年4月の開校に向けて、しっかり準備を進めていきたいと思っておりますので、またいろいろアドバイス等をいただければと思っております。

それから黒石原支援学校についてもお話がございました。熊本高専にしっかり支援をしていただいて、ICTを使っていろんな支援なり、また高専といろいろなことができないかということで協議を進めておりまして、こういった取組みを進めながら、支援学校の生徒達が生き生きと学習できるような環境を整えたいと思っております。また、高校の空き教室を活用したということでは、先ほど田口委員の話、それから木之内委員からもありましたけど、私も芦北とかいくつも見に行きまして、おっしゃいますように、普通の高校生と交流もしながら生き生きとできているという話や、就職率も非常に良いということで、施設の整備、施設を新しく作るというのはなかなかハードルが高い部分もありますんで、そういった施設の有効利用あたりも考えながらやっていければと思っております。

三淵委員からは、特別支援教育とか、いわゆる医療との連携の話とかもいただきました。

学校ナースも含めて、いじめとかもそうですけど、やはり医療との関係が重要になってくるし、また、いじめられた子どもだけじゃなくていじめた人の話というか、そちらの方にもう少し目を向けるべきじゃないかという話も、いじめ対応の中でしっかりやっていければと思っているところがございます。私としては大体以上ですが、よろしいですか。

1つのテーマで、30分ずつぐらい予定しています。とりあえずこのテーマはいったん終了して、次のテーマに移りたいと思っております。次は、「きめ細かな教育による学力の向上とグローバル人材の育成」でございます。事務局の方から説明をお願いいたします。

【竹中 教育政策課長】

それでは2つ目のテーマの「きめ細かな教育による学力の向上とグローバル人材の育成」について御説明します。

資料は2ページを御覧ください。本テーマは、「確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成」と「外国語教育、国際教育の充実」の2つの項目で整理しております。

まず上段左側の将来像です。全ての子ども達が「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身につけること、また、誰もが自らの夢に向けて挑戦できるよう、学びを保障し、「確かな学力」を育成することを目指します。

次に、現状の課題及び右側の1年後の目指す姿です。小中学校の学力については、令和4年度の全国学力調査で全国平均を上回った項目はなく、また、県学力調査において正答率で3割未満の生徒は中学校で大きく増加し、特に小6から中1への円滑な接続や教員の指導力向上が必要となっております。1年後には、全国学力調査の全5教科で全国平均を上回ること、県学力調査の正答率3割未満の児童生徒の割合を前年度より減らすことを目指します。また、中3生徒の英検3級相当以上取得率、高3生徒の英検準2級相当以上の取得率及び「高校生の学びの基礎診断」で生徒の学力が向上した割合といった、教育プランに掲げた目標の達成に向けた取組みが必要と考えております。1年後には、中3生徒の英検3級相当以上取得率40%、高3生徒の英検準2級相当以上取得率45%、「高校生のための学びの基礎診断」で学力が向上した割合65%という目標値の達成を目指します。さらに、ICT教育の課題としては、校内通信ネットワークの脆弱性と学習データの利活用、今後増加が見込まれる外国人児童生徒等への対応として、日本語指導体制の充実及び市町村への支援が必要です。1年後には、校内通信ネットワークの充実及び学習データの活用を図るとともに、日本語指導の指導者養成及び関係市町村への適切な支援等による日本語教育体制の充実を図ります。そして、県・連携市町村共同による一体型電子図書館導入案の決定、令和6年春の「こども図書館」の開館を目指します。

続いて、下段の取組内容についてです。まず、「確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成」の1の「学力の向上」については、子どもの主体性を育む授業力向上委員会の実施、県学力・学習調査の実施を拡充して理科を追加すること、ICTの有効活用による授業改善に向けた遠隔授業の在り方研究、「高校生のための学びの基礎診断」を活用した生徒の学習改善など、学力の向上に向けて、教員の指導力向上や、児童生徒が主体的・能動的に学び続ける力の育成に取り組めるよう検討して参ります。2の「ICT教育日本一」については、校内通信ネットワークを強化し、既存回線の増強、専門高校への実習棟等への拡張を行うとともに、一人一台端末の整備の次のステップとして、AIを活用した学習デー

タの分析・学習課題の可視化を検討することとしており、テストの自動採点・分析ソフトを導入したいと考えております。また、県・連携市町村共同による一体型電子図書館導入に向けた検討を進めて参ります。3の「こども図書館／くまもと文学歴史館」については、まず、「こども図書館」については、安藤忠雄さんと知事の思いを十分踏まえまして、令和6年春の開館を目指ししっかりと取り組んで参ります。また、「くまもと文学歴史館」の国宝里帰り展についても、令和6年春開催に向けた検討を進めて参ります。

続いて、「外国語教育、国際教育の充実」の1の「英語教育日本一」についてです。英語教員の指導力向上に向けた取組みや、英語検定試験受験に対する助成等により、「英語教育日本一」を引き続き目指すとともに、TSMC進出を視野に入れて、更なる日本語教育の充実、駐在員子女受入体制の整備に取り組んで参ります。

本テーマに関する説明は以上です。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございました。この2番目のテーマについて、御意見等ございましたらよろしく願いたします。

【蒲島 知事】

じゃあ1ついいですかね。

【白石 教育長】

はい。願いたします。

【蒲島 知事】

私は若い頃に、たくさんの本を読んで、将来の夢を描きました。幼い頃から本に親しむことは、子ども達の「能動的な学び」に繋がるものと思っています。

その意味で、今回、安藤忠雄先生から「こども図書館」を寄付したいと。子どもに家族と一緒に図書館で本を読んで欲しいというので、とても素晴らしい提案だと思います。そしてこれを使って、未来を担う子ども達の夢を育む施設として活用されるよう、教育委員会と連携して、しっかりと取組みを進めていきたいと考えています。安藤先生の思いは、まず設計の段階から建物まで自分の方で全部作って寄付をしたいと。ただ、その運営については、たくさんの方々が参加することが大事ではないかと。いただいた図書館というよりも、みんなで作り上げるという、その運営の部分については、やはりボランティアの方々、そういう意味で県の方がやるべきだという考え方で、確かに私もそう思いますので。参加型ですね。そうすると子ども達も一緒に参加するという、そういうふうな「こども図書館」になるのではないかなと思っています。

皆さんのお手元にチラシがあるかと思いますが、12月18日に「こども本の森 神戸」の名誉会長である女優の竹下景子さんをお招きして、読書の大切さを伝えるためのイベントを教育委員会で開催してもらいます。これにも、多くの県民の皆さんに参加していただき、「こども図書館」の整備に向けた機運を高めたいと思っていますので、よろしく願いたしますし、また、教育委員会の方も、是非参加していただけたらなと思っています。

以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございました。

「こども図書館」については、知事部局と教育委員会で連携して、令和6年春を目指して、今準備を進めているところでございます。

他にありますでしょうか。木之内委員、お願いします。

【木之内 教育委員】

今、知事からもお話がありましたけど、やっぱり読み聞かせを子どもの頃に行っていることはものすごく大きいと思うんです。我々ぐらい年を取ると段々現実性が見えてきて、夢を抱きにくくなる。ないわけではないですけど。しかし、子どもの頃というのはすごく自由な発想で、本当に自分の人生を考えられる。このときに、いかにいろいろな本に触れるか、またそういった機会に触れるかというのはすごく重要で、この「こども図書館」というのは、将来、夢を育むものになるなというのを感じております。そんな中で、以前、小川だったか、小学校のボランティアの方々が来て、いろいろな読み聞かせみたいなことを続けているというのをちょっとお聞きしたんです。是非こういった「こども図書館」なんかと連携を図りながら、各地の小学校とかでのボランティア活動とか、こういったものに繋げていかれたら、非常に夢があってよろしいのではないかなというのを感じました。それと、「学ぶ意味」というのが冒頭のところで、将来像で書いてあるんですけど、むしろ中学校、高校ぐらい、また大学生もそうかもしれないんですけど、何のために学ぶのかということを実際に自覚している生徒、学生がちょっと少ないのかなという気がしています。そういった意味では、もちろんこういった数字的に、英検だとか、いろいろな全国模試がとかいうのは、当然指標として重要なものだとは思いますが、やはりそれと並行して、点数を上げるのが目的ではなくて、自分の将来の夢、まさしく知事がおっしゃられている夢の実現というものをどのようにして生徒にもきちっと持っていただくかという、その施策がすごく重要なのではないのかなという気がします。どうやればいいというのが僕なりに、具体的にありわけではないんですけど、そういうのを感じたと。ただそんな中で一つあるのは、我々が農業の神様と言っていた松田喜一さんは、夢と生活というのはシーソーだと言っているんです。生活がよくなると、必ず夢はなくなる。逆に、生活を低くしとけば夢があってと、こう言われているのです。これは非常にそうだなと思うのは、僕も開発途上国をかなり回って、途上国の子ども達は本当に裕福になれるかなんて、また例えば車に乗りたいとか、テレビが欲しいということすら、本当に叶えられるかわからないような山の中にいる子ども達も、将来こうなりたいというのを皆持っているんですよね。ところが、日本の子ども達は生活が良すぎるのか、案外夢を持たない、半端に現実的になりすぎているというのを感じるので、今後、夢をどう作るかが大事かと。その中でちょっと思うのは、うちの大学でもそうですし、熊大さんなんかでも、相当な留学生が来ているんです。この留学生の方々というのは、それなりに、知事もそうですけど、外国に行って学ぼうというのは相当な思いがある。自国と日本の違いも知っている。そういう中で、もし可能であれば、こういう留学生あたりを、例えば小中高なんかで、自分の国がどうなのだ

よとか、あまり難しいことではなくて、ちょっと話をしてもらえそうな機会を作っていくなんていうのは、グローバル化ということも含めて、お互いにいろいろないい部分があるのではないかなと思います。そういった留学生の活用という言い方が良いかどうかわかりませんが、そんなこともいろいろ考えてもらうと、留学生にとっても非常に良い学びになるのではないかなと感じています。

もう一つはインターナショナルスクールのことです。先日、実はルーテルの松本学長が来られたので会ったんですけど、きちっとした学校として立ち上げられるところで、今一番TSMC関係で課題になっているのは、小学校の部分だと思うのです。これはうちの学長も言ったんですけど、小学校をやるというのは、相当ハードルが高いと。東海大でも、もう無理だということを明言されたんです。そんな中で、実はルーテルがやろうとしていて、松本学長には非常に良いのではないですかとお話したんです。ただ、そのときに松本学長がおっしゃられたのは、私立だけではなく、国公立も含めて、大学全体、皆さんで応援してもらえないかなというので、そのあと、中山学長にもいろいろお話ししたところが、大学コンソーシアムとしては、もう他の大学は手を出せる状況ではないんです。それだったら皆でルーテルになることを応援しようよみたい話にはなっているんです。だから、僕はこのTSMCが来る機会というの、一つの起爆剤として今だろうと思うんです。これはどこでも簡単にはできないと思います。当然ルーテルさんにしても、相当ハードルはあると思うんです。そういうのを是非、教育委員会もですし、手を挙げているところをある程度応援をして、実現化する。そういったことがこのインターナショナルスクールについては重要かなと思いますので、是非お願いしたいなというところです。また、県自体としては、バカロレアに挑戦している。こういったことも、将来の子ども達の夢を作っていく大きな後押しになると思いますので、引き続き、よろしくお願ひしたいと思います。

【白石 教育長】

ありがとうございます。田口委員、お願いします。

【田口 教育委員】

「こども図書館」、もうすでに安藤さんがつくられている図書館をネットで見ましたけど、すごく有名ですし、素敵だなと思いました。是非熊本でつくられる場合には、県産材をふんだんに使っていただくと良いなと思います。

もう一つ、知事のお話をお聞きしていて、ボランティアの養成・育成も非常に重要かと思いました。木育関係では、東京おもちゃ美術館がスタッフを養成していて、その研修を受けた方々にはその認定書を差し上げて、そして同じエプロンをつけて子ども達に対応されると。福岡でもおもちゃ美術館がスタートしましたが、たくさんのスタッフの応募があったそうです。図書館についても、読み聞かせであったり、本のアドバイスをきちんとできる、そういうスタッフが充実してくると良いなと思いました。そこで増やしたスタッフは小中学校にも派遣できて、いろいろな波及効果があるだろうなと思ったところでした。

もう一つ、確かな学力とICT教育の件なんです。熊本県は文部科学省の指定を受けて、高校が連携して授業をお互いに提供し合うというコアハイスクールネットワーク構想に取り組まれています。天草、阿蘇、人吉、そして熊本市、あとは県の教育センター

です。私は田舎の出身なのですが、どんどん子ども達が少なくなっていくって、進学を目指している子は、もうちょっと都会に行かないとしっかりした学びができない。そうするとお父さんお母さん達の負担も大きくなる。子ども達も中学校を卒業してすぐ親元を離れるというのは厳しいかなと思います。地元に残って、その学校では提供されていない科目が学ぶことができたり、または特進クラスのような、そういうカリキュラムがICTを使って実現できるのであれば、田舎にいてもしっかり学べるし、次の夢に挑戦できる、そういう環境ができるのではないかと考えています。今は文科省の指定で幾らかお金が出ておりますが、最終的には自走をしないとイケない。そのための準備と、これを広げるという準備を、是非やっていただければなと思っています。

もう一つ、TSMC関連なのですが、熊大も新しい学部を作りました。ただ、その前の段階の、情報教育に長けた方を目指そうという子ども達が熊本県で育成できているかどうか。例えば、高校で情報の免許をお持ちの方がいらっしゃるのですが、これは十数年前に、子ども達が減った中で新しい教科を作らないとイケない、いきなり何十人何百人の教員を作れないので、例えば理科とか家庭科とか、そういう先生方に免許を取らせて、そして情報の授業をしていただくというようなところからスタートしています。その後、なかなか情報の専門の先生の採用が熊本ではありませんでした。今担当されている先生方は一生懸命されているとは思いますが、もう少し充実するのであれば、プロパーの教員の採用は絶対必要だと思いますし、そして今度は中学校段階なんですね。技術家庭科で情報を学んでいるのですが、実は正規の教員免許状を持っている人は半分以下です。いきなり体育の先生、美術の先生が技術家庭科を担当して、情報もやれというように学習指導要領上ではなっているのですが、さて、きちんとしたものができるかどうかということなんです。せっかく県を挙げてこの情報教育、TSMCのバックアップに取り組むのであれば、その辺りから手をつけないと上手くいかないのではないかと考えております。御検討をよろしく願います。

【白石 教育長】

ありがとうございました。西山委員、願います。

【西山 教育委員】

先ほどのお話で、点数だけではないんですけども、令和4年度の学力調査で上回った項目がないというのは非常にショックなので、学力の向上に向けて、ソフト面では、やはり先生とその授業という形になるのかなと思いますし、先生の部分では、またあとで人手不足、人材不足、働き方改革の話のときにいろいろと意見させていただきたいと思いますが、併せて、その授業のやり方という部分で、DXの活用等がございます。そういったものを、先ほどの人手不足も含めながら、他力の活用あるいはアウトソーシング等を積極的に活用して、遠隔授業やVR、あるいはメタバースなどをどんどんトライしていくべきだなと。それがひいては先生方の働き方改革にも繋がってくると思いますので、そういうことをお願いしたいなと。しかし、そのためにはやはり資金が要りますので、教育に対しての資金を、知事にはよろしく願っています。以上です。

【白石 教育長】

三淵委員、お願いします。

【三淵 教育委員】

学力の向上については、全体の方向性としては、このような形でいかれるというのは非常に納得できるものかなと思いますけれども、やはり個別の学力が上がらないと全体が上がらないのかなと思って、どうしたらいいのかなと考えたのですが、まずその全体の目標は、1年後の目指す姿がありますので、一人一人の子ども達の目標が、その子に合わせて設定できたらいいのかなと思います。そのためには、ICTを利用したような、先ほど西山委員からお話がありましたけれども、そういうICTを利用したような形のノートでも良いのかなと思いますけれども、親も一緒になって考えて、一人一人の目標を持つということが大事なのかなと思いました。

また、健康教育のところですが、生理用品常備等とあります。性教育等は今もやられているかなと思いますし、いろいろ、がんの教育とか、感染も問題になりましたし、環境とかそういうものを医療関係者がお話しするような機会がもっと充実したら良いのかなと思いました。僕が知っている長崎県の取組みは、小児科の先生が、がん教育を、ずっと学校を回って、もう何十校という形でされていますけれども、その先生にかけられる費用はどのようにですかと聞いたのですが、給食をいただくということでやっていますと言われて。そのやり方で持続可能なのかなという気もしますが、その先生はそういうやり方で、そこを生きがいとしてやっておられるみたいです。私がいろいろな地域の医療関係者に聞くと、割と、申し出た医療関係の人達は、その地域に根差した人達は、いろいろそういうことをやりたいのだという方もいらっしゃるのでも、探していただくと、給食ぐらいでと言ったらあれですけど、やっていただける可能性も高いのではないかなと。そうすると、医療関係とその学校との繋がりが増えるし、先ほどのいじめとか、そういうことに関しても、非常に連携がとれるようになるのではないかなと思いました。以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございました。他はございますでしょうか。

【蒲島 知事】

ちょっとコメントで。

【白石 教育長】

はい。お願いします。

【蒲島 知事】

先ほど留学生とかボランティアの話がありましたけれども、私の経験で言うと、私は随分と海外に長くいましたので、娘が3人いるのですが、例えばプリンストン大学に研究員で行ったときに、子どもを連れて小学校に行くんですよ。すると、もうそこに置いてくださいというんですよ、その日から。帰りはちゃんとスクールバスで送りますから、今日

から置いていきなさいと。何ていうのかな、あまりそういう防波堤のようなものはないんですよ。このまま小学校に行って、次から毎日通うようになると。そういう意味で、留学生がもし、例えば台湾のTSMCの社員の子どもが来たときに、教室に2～3人そういう人がいれば、自然と国際化、あるいはグローバル化、いろいろ法律とか難しいこと言うであれでしょうけども、そういう人たちが教室に1人でも2人でもいれば、全体が輝いていくと。そういうふうにポジティブに考えた方がよいかと。私はアメリカのプリンストンの小学校に行って思いましたけど、こんなに簡単なんだと。名前は聞かないんですよ。パスポートを見せろとかそんなことはしない。きちっと留学の許可をしなければいけないという発想なんでしょうね。義務教育だから。そういうふうな、受け入れなければいけないという能動性が、熊本にあれば良いと思うので、是非教育委員会の皆様も、そういう能動性を持っていただければいいなと思います。以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございます。田浦委員、お願いします。

【田浦 教育委員】

ちょっと付け加えたいなと思ったんですけど、先ほど三淵委員がおっしゃった健康教育の推進拡充の中で、私は、若くして妊娠することが人生にどう影響を及ぼすのかというのを子ども達に考えてもらう機会が欲しいなと思っていて、自分の人生設計を考えると、子どもの命に対する親の責任ということを考える機会もいただきたいなと思っています。自分が安易な行動をとったがために、一つの命というものがどれだけ翻弄されるかということを考えるというか、命の大切さにもつながると思いますので、そういう時間も是非とっていただきたいなと思います。以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございます。何か事務局からありますか。お願いします。

【平江 体育保健課長】

はい。体育保健課でございます。今御指摘をいただきました関係でございますけれども、性に関する教育として、小学校、中学校、高等学校、また特別支援学校におきましても、系統的な教育を現在行っているところでございます。基本的には教科科目の中で、性に関する教育内容がございます。その中で、基礎・基本的な性に関する知識を学んでいます。委員の御指摘にありました、児童生徒が親となったとき、子どもの命に対する親の責任を考えるということ、これは命に関する教育にもつながってきますので、性に関する教育の中で基礎・基本的な学習をしたことを踏まえて、命に関する教育としっかり連携をさせながら、学校教育活動全体で展開をしているところです。引き続き、このことにつきまして、その重要性を学校現場の方にしっかり伝えて参りたいと考えております。以上でございます。

【白石 教育長】

ありがとうございます。

特にTSMC関係というのは、本県のビックチャンスといいますか、知事もいつもおっしゃっていますけども、それで県庁横断的にプロジェクトチームを作って、各分野で取り組んでいるところでございます。インターナショナルスクールの話とか、留学の話が知事からもありましたけど、今、公立学校においても、受入体制をしっかりと準備しているところでございます。日本の学校を好まれる方については、人数にもよりますが、クラスに何名かずつ入ってもらって、そこで一緒に教育を受けてもらうとか、インターナショナルスクールの方で英語だけで勉強したいという方はそちらの方に行くという形が考えられているみたいですが、いずれにしても、県を挙げてしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

ちょっと時間の関係で、とりあえず次のテーマに移って、そしてまた、もし必要であればここに帰りたと思いますので、よろしく願います。では、3番目のテーマについて、事務局の方から説明をお願いします。

【竹中 教育政策課長】

それでは3つ目のテーマの「魅力ある学校づくり」について御説明します。資料は3ページから5ページです。

3ページを御覧ください。本テーマは、「県立高校の魅力化」と「子供たちの学びを支える環境の整備」の2つの項目で整理しております。

まず、上段左側の将来像は、新しい時代に対応した全ての児童生徒が夢に挑戦できる魅力ある学校です。

次に、現状の課題及び右側の1年後の目指す姿です。令和4年度の県立高校の定員割れは50校中41校、2,790人です。熊本市以外の地域で定員割れが進行しています。1年後には、郡部の学科改編校の入学者数増、入学希望者が増加した県立高校の学科・コースの割合が教育プランに掲げる目標値の80%を達成することを目指すとともに、県立高等学校あり方検討会提言期間後の準備を開始します。また、県内就職率は63.0%です。つまり、県外就職率37.0%ということになりますが、この数値は全国で3番目に高いものです。1年後には県内就職率65.0%、インターン実施率80.0%といった目標値達成を目指します。さらに、令和4年5月1日現在で97人の教員不足が発生しています。令和3年度の教員不足率は、中学校及び特別支援学校が全国ワースト1位、小学校がワースト2位となっており、時間外在校等時間が月45時間以内となる教職員の割合は、県立学校74.8%、熊本市を除く市町村立学校で67.6%という状況です。1年後には、教員不足数の減少、また、時間外在校等時間が月45時間以内となる教職員の割合の増加を目指します。

続いて、下段の取組内容についてです。「県立高校の魅力化」については、1の「各学校の特色や強みを生かした取組を重点的に推進」するため、(1)熊本スーパーハイスクール指定校への支援等に取り組み、併せて、(2)特色ある学科等の設置・検討として、高森高校の教育環境の充実検討、また、国際バカロレア認定に向けた準備を進めていきます。2の「多様なパートナーとの連携による取組を推進」し、高校魅力化に係る地元市町村を支援するとともに、3の「県立高等学校あり方検討会提言以降への対応」を進めてい

きます。さらには、4の「キャリア教育の推進と若者の地元定着」に向けた取組みも着実に進めていきます。

次に、「子供たちの学びを支える環境の整備」についてです。こちらは「教員不足の解消」と「働き方改革の推進」がございしますが、この2つについては、資料の4ページと5ページに別途まとめておりますので、そちらを御覧ください。

まず4ページ目、参考資料①「教育不足の解消」についてです。まず、現状の課題ですが、先ほど説明しましたとおり、本年の5月1日現在で97人の教員が不足、また2の令和3年度における全国の教員不足率の状況を見ていただくと、中学校と特別支援学校において、本県は全国ワースト1位、小学校は本県全国ワースト2位という状況です。右側の受考者数・採用者数・競争率の推移については、大量退職に伴い、新規採用者数を増やしてはいるものの、受考者数が減っているため、採用倍率が年々低下している状況です。令和5年度の小学校教員の採用については、最終合格者数が採用予定者数を下回るという危機的状況になっております。

その背景・要因としては、下段の左側にあるとおり、教員の大量の定年退職、教員志望者の減少、また、特別支援学校・特別支援学級の増加が挙げられます。これらの課題解決に向けた具体的対策としては、働き方改革の推進や選考考査の見直し、その他再任用教員の確保など、様々な対策に取り組むとともに、県外のUIJターン教員等への支援、教員の魅力・やりがいの発信、有資格者、いわゆるペーパーティーチャーの発掘などの新たな取組みを検討しているところです。

次に、資料の5ページを御覧ください。「働き方改革の推進」についてです。現状の課題としては、本県では、令和2年8月に、「熊本県の公立学校における働き方改革推進プラン」を策定し、教職員の負担軽減に取り組んでいるところですが、時間外在校等時間が月45時間以内となる教職員の割合は、県立学校74.8%、市町村立学校67.6%となっております。右側の表の下に総務省のデータを記載しております。全国の警察、消防、教育委員会以外の都道府県職員のうち、令和2年度の時間外が45時間以内の割合は93.6%となっており、学校の教員と差が大きくあるということで、学校の働き方改革に係る取組みをより一層進めていく必要があると考えております。

これらの課題解決に向けた具体策として、教員業務支援員等の拡充の検討、働き方改革支援アドバイザーの派遣などの民間・外部人材の活用、学校徴収金のシステム化、また、都道府県単位では全国初となる給食費の公会計化、さらには、校務のICT化の取組みを進めていきたいと考えております。また、部活動における働き方改革としては、地域移行に向けた市町村の支援や部活動指導員の配置拡充を検討していきます。

本テーマに関する説明は以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございました。このテーマについて御意見等ございましたらお願いします。西山委員、お願いします。

【西山 教育委員】

今回特にこの点を知事をお願いしたいなと思っていたんですけども、参考資料の4ペー

ジなんです、教員の不足率の状況等は今御説明がありましたけども、この課題を強く私が感じた、あるいは強烈な印象を受けたのが、採用試験にオブザーバーとして参加させていただいたときなんです。ここにも書いてありますけど、採用倍率が年々低下しているということなんです、実は面接された先生が、ぼそっと独り言で、「昔だったら採用してないんですけどね」って言われたのが非常にショックで、こんな状況になってるのかと。教育の原点というのは、先ほど言いました、やはり先生になるわけですから、先生の部分へのサポートをもっと強化しないといけないなと思ったのが、そのときの印象です。先生が人気がない、あるいは働きがいを感じない、そんな状況がずっと続いてきて、積み重なってこの状況になっている。ここが原点ですから、ここから全ての教育は成り立っていきますんで、こここのところは、もうプライオリティナンバーワンじゃないかと。この解消をしなければいけない。

そのためには、先ほど働き方改革の御説明がありましたけども、5ページ目の働き方改革を強力に進めなければいけない。これを見たときにも、残業の割合で、全国平均の93.6%という部分と非常に大きな乖離があり、そういったところも課題で、もう大変だなという感じがします。いろんな対策を考えられていることかと思えますけども、業務分析をされて、先生以外でも可能な仕事があれば、他力を活用、あるいはアウトソーシングに出して待遇をまず改善して、先生方のやる気醸成じゃないですけども、改善してあげなければいけない。例えば、電話なんかも、ちょっと言い方が悪いんですけど、モニターペアレンツの方々、夜もどどんかかけられて、それだったらもう6時以降はアウトソーシングに回したらどうですか。そういった部分を含めて、業務改善をすべきだと。業務改善では、日本のものづくりというのは非常に世界に誇れる技術なんですけども、今回TSMCにソニーさんと、またデンソーが来るということで、トヨタのものづくりというのは一つ一つ業務を分析しながら、まあ教育は効率とは違いますけども、先生が必要ない仕事をして、いわゆるものづくりでいうと、無駄な仕事というところなんですけども、他に回せる仕事、表現が悪いんですけども、そういったものを分析して、アウトソースあるいは他力を活用して、業務分析、働き方改革をすべきじゃないかということ、今回特に知事にはお願いしたいと思って来たところです。

最後に、3ページの「魅力ある学校づくり」で一点だけ申し上げますと、高校の魅力化という部分で、高校間連携とありますけど、やはりこれを進めるべきだなと。個々には非常に力がない厳しい学校が存在している中で、そういう横の連携をして、デジタルだけじゃなくてリアル、リアルとデジタルを併合せながら連携をして、魅力をアップして、その連携のもとでその地域、行政、企業も含め、巻き込んでいながら、魅力化を進めていくということで、高校間連携というのは、特に具体的に考えて誘導していくべきだなと個人的には思っているところです。以上です。どうぞよろしく申し上げます。

【白石 教育長】

ありがとうございました。田口委員、お願いします。

【田口 教育委員】

全国都道府県教育委員協議会というのが7月11日にございまして、私も参加しました

が、その中の議題が、全国的に教員が不足しているというものでした。熊本の状況を説明したのですが、例えば中学校で、47都道府県のうち、定員に達してない、教員が不足しているのは12しかありませんでした。それ以外の県は充足しているという状況なんですね。足りない原因として、これは全国の調査ですが、産休・育休取得者数が見込みより多かったからとか、特別支援学級数が見込みより増加したからとか、病休者数が見込みより増加したからと。この理由は熊本県でも当てはまることではあるんですが、12の県以外、35県では、このあたりも見越して作業して準備を行っていたということだと思います。あと静岡県なんですけど、小中学校で担任が不足していたり、教科での授業に支障が生ずることは全くないと断言されました。これは徳島とか宮城でもそうです。さらに、静岡や徳島は人材バンクを作っていると。静岡の場合には700人の講師を予定しており、言ってもらえればすぐ担任として入れますよという人が700人もいらっしゃるということです。この辺りについても、熊本は相当遅れているなと思いました。かなり負のスパイラルに入っているということですね。

熊本県の先生方は、すごく優秀で意欲を持って取り組んでおられますが、教員不足によって過重な負担が生じて、例えば数年前ですが、小学校の担任の先生がいらっしゃらない、教頭先生が担当した、又は学期ごとに担任の先生が変わるという状況がありました。この部分については大分改善されましたが、いくつかの学校ではまだと理解しております。

最近若い先生方が増えて、産休・育休を取られる先生も増えてきました。これは非常に喜ばしいことだと思います。次を担う若手の先生、そしてお母さん、子育てを体験した男性・女性の先生方が増えるというのが、学校教育では良いんですが、ただ、自分の後任が見つからないと子どもが産めないというブラックジョークまで出ていたり、又は、県内の高校なんですけど、またあの先生が産休・育休に入られるけど、どうせ加配はないよね、残った人たちが授業と業務を分担するんだよねというような諦めの言葉もあります。これらの悪い環境が続くと、そういうのは、これから教員を目指す人達に大きな影響を与えるのかなと。マスコミでよく言われるブラックなイメージも、ここからも出ている可能性があるなと思っています。負のループを抜け出すためには、相当な決意と相当な何か大きい手立てをつけない限り、なかなか難しいところがあるのかなと。

今まで教育委員会の先生方、指導主事の先生方は一生懸命やられておりますが、それでも、もうなかなか抜けられない。既に学校人事課の先生方がいろんな手を打っておられますが、なかなかその効果が出てこない。昨年度と比べて、更に今年は受験倍率も下がってしまったということです。「ICT教育日本一」ですとか「英語教育日本一」に熊本県が取り組まれており、それも少し効果が上がってきております。非常にいいことだなと思いますが、それに加えてですね、例えば「学校の働き方改革日本一」とか、「教員として働いてみたい県日本一」とか、そういうのを目指せば、いろんなことがうまくいくのではないかなと思っています。以上です。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございます。

【蒲島 知事】

じゃあちょっと私から。

【白石 教育長】

どうぞ。

【蒲島 知事】

西山委員と田口委員の御意見は、私はとても重要だと思います。田口委員のお話を聞くと、方向性をちゃんと示すことができれば、改善の道があるような気がするんですね。先ほど田口委員の方から分析がありましたけども、その分析を教育委員会でしっかりと共有して、よくやっているのはどうしてかということを見つけて、その方向で進むと。働き方改革もそうですよね。聞いていると負のスパイラルに陥っているような気がしますので。そのところは、知事部局も一生懸命に協力いたしますので、是非一緒にやったらいいなと思います。多分その部分がきちとならないと、いろんな目標が達成できないような気がするんですね。

もう1つは、「魅力ある学校づくり」に関して、TSMCの話がありますけども、TSMCの進出は、熊本県にとって、半導体産業の更なる集積につながるビッグチャンスであります。そして、半導体関連企業とかTSMCは、とても優秀な人材を求めていますので、県としては、熊本の子ども達も、将来、そのような企業で活躍できるような教育にしっかりと取り組んでいく必要があると思います。そのような教育に取り組むことが、子ども達の夢の挑戦を後押しすることにもなりますし、「魅力ある学校づくり」にも繋がるんじゃないかと思います。是非そのような視点を持って、取組みを進めていただきたいというのが私の意見です。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございます。田浦委員、お願いします。

【田浦 教育委員】

話が前後しますが、先日、夜間中学のシンポジウムに参加させていただきました。生徒に合わせた個別最適化された学びが実現されているんだなと感じました。それを可能にしているのが十分な数の教職員だと思ったんですね。ほとんどの授業において、教員は複数配置されているということでした。それと、北海道の学校は、年5回の計画的な教育相談をされているということで、生徒の学習状況とか学ぶ環境を把握されて、それを十分考慮した上で支援に繋がられているなということを感じられました。それを是非、本県の教育でも実現させていただきたいなと思ったんですけど、そのためにはやっぱり十分な数の先生方がいらっしゃる事が大事だなと思っています。

そこで、地域の人材を活用できないかなと私は思うんですけど、なかなか先生が1クラス40人の子ども達1人1人に目を向けるのは難しいことだと思いますし、それから、生活に追われていて、我が子の様子にも構ってられない保護者の方もいらっしゃるんじゃないかなと思います。私はPTAをさせていただいてましたけど、PTAの講演会とか、

また、社会教育課の「親の学び」とかも、本当に届けたい方に届いていないというのが一番の課題だと思っていました。そこをカバーできる地域の人材を活用していただけないかなと思っています。コロナ禍での孤立というのもすごく心配ですし、子どもにとって、学校の先生とか保護者以外の信頼できる大人が学校にいてくれることというのは、子どもの心を安定させることにも繋がりますし、それが落ち着いた授業を受けられる態度を養うということにもなるんじゃないかなと思っています。

私は、ユッピーメールの配信を受けているんですけど、子どもにお茶をあげようとか、登下校の最中にですね、アメをあげようとか声をかけると、不審者というふうになるんですよ。子どもに関われるのは学校の中だけなのかなというふうに思います。人生経験が豊かな大人が、もういっぱいいっぱい先生とか保護者の代わりに、子どもに愛情を注いでくださるということが実現できれば、子ども達にとっても、それはいいことなんじゃないかなと思います。子どもが孤立化することが、社会的な事件を起こしてしまうことに繋がることが多いなと思うので、それを防ぐ上でも、子どもの様子に気を配ったり子どもに声をかける、少しでも愛情を注げる環境というのが学校の中にあればいいなと私は思っています。今、地域学校協働活動推進員という活動がなされていますけど、その方達に無償のボランティアとして学校に入ることができるかどうかというのを尋ねるアンケートを実施していただけたらどうかなと思っています。以上です。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございます。

教員不足と働き方改革というのは、私もですね、4月に就任して、この実態を見て、これはしっかり全力で取り組まないといけないなということで、担当部局にもしっかり取り組んでもらうように言って、いろんな手を使ってやれることは全部やろうということで取り組んでいます。先ほど西山委員から話がありましたが、採用数を不足分を積もうとしたら、その倍率が1倍を切っちゃうみたいな話もあってですね。ですから、やはりできるだけ受けてくれる人を発掘していかないといけないし、いろいろな角度から魅力アップもしないといけないし、業務量の削減もしないといけないしということで、知事からもさっきお話をいただきましたので、しっかり頑張っていきたいと思っています。

それと、TSMCの関係で、やはり高校生とか中学生の段階での人材育成と申しますか、今回の半導体関連の進出というのもあって、その分野での人材育成も、高校段階でもですね、しっかり取り組んでいくと。さらに、理系だけじゃなくて、文系の子ども達にも、こういった将来の夢を持ってもらうような、大学で仮に県外に行ってもまた熊本に戻ってくるようなキャリア教育とか、高校・大学の連携とか、そういった事業にもですね、しっかり取り組んでいければと思っていますところでございます。

予定の時間を過ぎましたが、全体をとおして、また、3つのテーマ以外でも何でもよろしいので、何か委員からあれば。三淵委員、よろしく申し上げます。

【三淵 教育委員】

北里柴三郎が千円札になるというのが、令和6年ですかね。郷土の偉人で、彼はヨーロッパに留学したりとか、インターナショナルに活躍しましたから、そういうところをです

ね、何か子ども達に知らせるようなことを。「こども図書館」とかは、ちょうどタイミングがいいのかなと思いましたんで。あと歴史館とかですね、その辺も盛り込んでいただけるといいんじゃないかなと思いました。以上です。

【白石 教育長】

ありがとうございます。木之内委員、お願いします。

【木之内 教育委員】

教員の数は本当に本腰を入れていただければと思います。あともう1つですね、ちょうど多良木の閉校のときに私は教育委員長だったんですけど、見ていると、高校あたりの再編で定員を作っていくのに、やはり各地域の首長の意識というのはすごく重要だなと思っているんですね。今回、例えば高森にマンガ学科ができるというのも、相当町自体がテコ入れをしているということがあると思います。ですから、日頃から、例えば、特に熊本市以外の郡部の首長たちと、全部が全部すぐにやるわけにはいかないにしても、我々教育委員会と意見交換をする機会を是非作っていただけたらと思うんですね。日頃から意見交換しておかないと、首長の方々はなかなかお忙しいんで、教育についてももちろん考えてはくださっていると思いますが、全県下的な意味も含めて、いろいろ意識していただくという機会を是非作っていただけたらと思っています。以上です。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございます。田浦委員、お願いします。

【田浦 教育委員】

私が教育委員になってから、一番起こって欲しくないことがこの間起こって。学生の自殺についてですね、ちょっとネットで調べてみて、島根大学教育学部に、学生の自殺を防ぐためにというのがあったんですね。その中に、常日頃から心がけておくこととして、学生の自殺を防ぐために最も重要なことは、学生が死にたいとは全く考えていないときの、つまり学生が普通に元気であるときの教職員の対応である、学生が死にたいと思にくいような環境、死にたいと思ったときに誰かに相談してみようと思えるような環境を常日頃から作っていくことが重要であるという言葉があるんですね。子ども達が学校にいるときに、子どもの様子を、先生方だけではなくて、常日頃見守る存在として、地域の方がいてくださったらなと思いました。以上です。

【白石 教育長】

はい。ありがとうございます。

【蒲島 知事】

1点だけ。

【白石 教育長】

お願いします。

【蒲島 知事】

これは知事としてのお願いでもあるんですけども、働き方改革に関係するのは男性の育休取得、これは熊本県が少ないのね。だから、教育委員会でも、全ての負担を母親にかけるんじゃないで、育休をとって欲しい。そして、男性がそれを取ることで、お子さんを産む様々な負担が、少しでも軽減されるのかなと思いますんで、これは是非お願いします。男性の育休取得は多分全国で最も低い方じゃないかな。そういうことで支えるというのがとても大事だと思うので、家族で。是非お願いしたいと思います。

【白石 教育長】

ありがとうございます。

北里柴三郎の話をお聞きいただきましたけど、今年、小国町にひ孫の北里英郎先生が来られました。その先生と、高校と県立大も一緒にタイアップして、各高校を回って講演をしていただいて、北里柴三郎さんがどういった人で、ヨーロッパとか農村とか日本のためにどういうことをやってきたか、こうした講演をしていただくような話も今しております。そういった形で取り組んでいかなければいけないし、高校再編の話も、今後、次のステップに向けての取り組みを始める中で、やはり各地域の意見を聞く必要があると考えておりますので、その辺りで当然首長さんの意見も聞いていければと思っています。

それから、いじめ問題について、田浦委員の方からありましたけど、このいじめ問題はあってはならない問題と重く受けとめていますので、これも全力です。いろんな御意見を踏まえながら、取り組んでいきたいと思っています。

それから、知事から育休のお話もありました。私も4月に就任してからですね、学校を含めて、男性の育休取得の取り組みをしっかりと進めることで働き方改革にも繋がっていくし、育休を取れないブラックな職場じゃないかと言われぬように、育休を取れることで生き生きとした職場づくりに繋がっていくという考え方で、各学校の校長さんたちにもしっかりとお願いをしているところでございます。知事がおっしゃいましたように、令和2年度の数字が確か最低だったと思うんです。もうすぐ令和3年度の数字がまた出るんですよ。それは昨年度の実績なんで、もしかしたらあまり上がってないかもしれないですけど、令和4年度の数字は確実に上がるように頑張っていますので、よろしくをお願いします。

ちょっと予定の時間を過ぎてしまいましたけども、各委員さんよろしいでしょうか。貴重な御意見をありがとうございました。それでは、事務局の方にマイクをお返しします。よろしくをお願いします。

【竹中 教育政策課長】

本日は、様々な観点からの御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。本日いただいた御意見も踏まえまして、今後の施策について改めて整理した上で、検討を進めて参りたいと考えております。それでは、以上をもちまして、会議を終了いたします。どうもありがとうございました。